■被災地出張授業

···· 2017年 1月27日

「自分発見への旅立ち」への挑戦



IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業は今回が最後となる。就職や進学を 目前にした岩手県立大船渡東高等学校の3年生の生徒を対象に、徳植桂治幹事が自らの歩み を振り返りながら、これから社会人になるに当たって大切なものは何かを語った。

震災廃棄物のリサイクルを 行った大船渡工場

太平洋セメントは、日本をはじめアメ リカ、中国、フィリピン、ベトナム、タ イ、シンガポール、パプアニューギニア などに工場があります。そのうち、 2011年3月11日に発生した東日本大 震災によって大船渡工場は大きな被害を 受けましたが、4月1日に復旧宣言を行 い、東北全体の復興とともに工場再建に 取り組みました。

まず、大船渡工場では、岩手県の災害 廃棄物のリサイクル処理を行いました。 震災がれきを土砂系と木屑系に分けて、 それをセメントの原料と燃料として使い ました。津波の廃棄物は塩をかぶってい るため、除塩設備を造って塩を取り除く 作業が必要でした。

そして2016年からは、バイオマス発 電事業に取り組んでいます。使用する木 質バイオマス燃料として、従来は廃棄さ れていたパーム空果房(EFB)に着目しま した。EFBは塩素やアルカリ含有量が多 いため、震災の廃棄物処理で培った除塩 技術を活用して除塩・中和します。2019 年からは電力供給を開始する予定です。

太平洋セメントは大船渡市と共に歩ん できました。私が入社して、最初に赴任 したのが大船渡市でした。「故郷は遠きに ありて思うもの」という言葉もあります が、東京生まれの私にとって大船渡は故 郷のような存在です。皆さんもぜひ大船 渡を大切にしてください。

急速な変化に柔軟に対応して タフに生きる

21世紀の世界と日本は急速に変化して

います。アメリカは9.11とイ ラク戦争、リーマン・ショック と金融バブルを経験し、現在は トランプ大統領が誕生して、内 向きと分断の危機にあります。 また、中国は世界の工場といわ れ、日本を抜いてGDP世界第 2位になりましたが、今は成長 が鈍化しつつあります。欧州も EU統合の流れから、イギリス のEU離脱などにより分断が始

まっています。そして、日本でも経済の 長期停滞が続いています。

これから先も思いもよらぬ変化が起き るでしょう。皆さんはそうした変化に柔 軟に対応して、タフに生きなければいけ ません。日本の人口減少は深刻な問題で すが、それがマイナス成長につながると は思いません。人材不足解消のために、 AIやロボットなどの技術革新が起きてい るからです。日本は課題先進国ですが、 課題の解決を見いだせば世界最先端国に なれるはずです。

特別なスキルを磨き 自分自身の存在価値を示す

これからはデジタル・エコノミーの時 代になります。2045年までにシンギュ ラリティ (技術的特異点)に到達すると もいわれます。

そうした中で心配なのが、激変するメ ディアとその世代間格差です。私たちの ような世代は、新聞やテレビが頼れる情 報源でしたが、現在の若者はSNSなど を情報源として頼りにしています。そこ では注意しないと、偏った意見に誘導さ れてしまいます。あふれる情報をどう取 捨選択し、正しく理解するのか。自分で 考えて自分で決めるようにしなければい

また、将来はAIの発達によって単純な

労働力だけでなく、いわゆるホワイトカ ラーなどの職種でも機械化が進むでしょ う。従って、皆さんは特別なスキルを磨 き、自分自身の存在価値を示し続けなけ ればなりません。

自分の足で立って 自分で考え、自分で決める

私の会社人生を振り返って、いくつか のアドバイスをします。まず知ってほし いのは、仕事は選べないということです。 たとえ畑違いの仕事でも、自分の得意分 野に絡ませることで、興味を持つように しましょう。

社会へ巣立とうとしている皆さんは今、 不安と期待でいっぱいのはずです。しか し、失敗を恐れないでください。失敗す

れば、それを糧に必ず前進できます。そ して、自身で決める能力と自分で考え抜 く力を持ちましょう。社会が悪いと思っ ても、そこで諦めないで、自分のできる ことに挑戦するしかありません。自分の 人生なのですから、自分で切り開くしか ないのです。

最後に三つの言葉を贈ります。まず、 高村光太郎の『道程』にある「僕の前に道 はない(僕の後ろに道はできる」です。自 分で道を切り開くことの大切さが伝わっ てくる言葉です。二つ目は、『史記』項羽 本紀にある「先郎制人」です。これは、「何 事も人より先に行えば人より有利な立場 になれる」ということです。三つ目は、 夏目漱石の『草枕』にある「智に働けば 角が立つ。情に棹させば流される。意地 を通せば窮屈だ。克角に人の世は住みに くい」です。

実は会社組織では、この三つ目の言葉 のようなことがよくあります。知恵や感 情や意地が先に立つと、周りからひんしゅ くを買ったり、誰かを傷つけたりしがち です。では、どう生きればいいのか。私 は「70%と30%ルール」が有効だと思い ます。もしも人を批判するとしても、7 割批判したら3割はほめます。何事も全 否定せずに、両方を立てる姿勢が組織の 中では大切です。

いずれにしても、皆さんには自分の足 で立って、自分で考え、自分で決めるこ とを大切にしてほしいと思います。親や 先生、仲間への感謝の心を持って、社会 に旅立ってください。

質疑応答

4月から社会人になるに当たって、 それまでに何をしておけばいいの でしょうか。

今までは授業や部活で忙しかった ことでしょう。せっかく空白期間 ができたのだから、日頃できなかったこ とに取り組むといいと思います。たくさ ん本を読んだり、旅行して見聞を広めた りするなど、いろいろと考えられます。

2年間アメリカに勤務したという ことですが、海外勤務で苦労され たことは何ですか。

ロサンゼルスに住んでいまし たが、家の周りの道で落ち葉 掃除をしていたら、近所の人から文 句を言われました。「お前は人の仕事 を取るのか」と言うのです。アメリ 力では、道路清掃や庭の手入れなど は多くの移民が従事している仕事だっ たのです。そのように海外では、日 本と違うことがたくさんあります。 そうした各国の事情を理解して、初めて 国際人になれるのだと思います。



生徒の感想

●不透明·不安定·不確実で、複雑·混 沌・曖昧な時代だが、日本は解決策 を見いだせば世界最先端になれるこ とが分かりました。若い世代はSNS

をよく使うが、確かではない情報があふれる中で、正しい 情報を見極めるべきだと分かりました。

- ●太平洋セメントは、ゴミを材料にしたり津波による災害 廃棄物を活用したりと、他ではできないことをしていると 感じました。太平洋セメントが大船渡と共にあるというの が、なんだかうれしかったです。日本はこれから長期停滞 するということなので、自分なりに頑張って生き抜きたい と思います。
- ●バイオマス発電所を開発予定とのことで、今後に期待し

たいと思いました。これが成功すれば世界初ということな ので、成功して、大船渡には素晴らしい会社があるんだと いうことを、もっと多くの人に知ってほしいと思いました。

- ●話を聞いて、技術の進歩により、さまざまなものがロボッ トでできるようになり、消えてしまう職種があると知りま した。また、自分の身近なことでは、地元企業の復興など を考える機会になりました。私は県外に就職しますが、成 長して地元に帰りたいと思います。
- ●2011年に震災があり、被害を受け、いち早く復旧し、 がれきの処理等をしていたことも知っていました。今、私 が生活できているのはそのおかげです。太平洋セメント大 船渡工場から内定をいただいたので、私も震災復旧の手助 けができればと思います。